

## 謝辞

### 八代京子

言語教育研究科英語教育専攻がスタートした年から「異文化コミュニケーション原論」、「異文化コミュニケーション研究」、「特別研究」を担当してきた。当初は実践英語分野に位置づけられていたこれらの科目が、その後、コミュニケーション分野という名称に変わってからも主要な科目であることには変わりなかった。大学院の授業は少人数を丁寧に指導できるので非常にやり甲斐があり、充実感があつた。このような機会を麗澤大学での仕事の最終章で得ることが出来たのは非常にありがたいことであり、心より感謝している。

修士論文を指導した学生の半数は留学生で、中国、台湾、タイ、ウズベキスタンと多様であつた。日本人学生とこれらの留学生と異文化コミュニケーションに関する興味深い研究を実施することができたのは、大変嬉しいことであつた。卒業生が麗澤大学大学院で学んだ経験を活かし、社会で活躍している姿を見るとつくづく良かったと感じる。

英語教育専攻の先生方と協力して学生の指導に当たり、英語教育専攻の科目内容の充実に貢献できたのはうれしいことであつた。特に、「言語技術」という科目を新しく開講できるようになったのは、時代の要請に応えるという観点からも有意義なことであつた。その他、「プレゼンテーション」の授業が就職試験のときに有利に働くことが実証された。コミュニケーション分野の科目が実践力を高めるのに効果があることは明らかである。

4月になると毎年新聞紙上で話題になるのが現代の若者のコミュニケーション能力不足である。電子メール、SNSなどを使ったコミュニケーションには長けているが、**face to face**のコミュニケーションをおっくうがる若者が多いという。ITコミュニケーションだけではなかなか心の通ったコミュニケーションはできないだろう。今日、**Face to face**コミュニケーションの重要性は決して減少しているわけではなく、むしろ重要性は増しているといえる。今後、言語教育研究科ではコミュニケーション能力育成のための研究と教育がより集中してできるよう、カリキュラムの充実が図られることを祈念している。

八代 京子教授 略歴・主要業績

略歴

学歴

- 昭和 36 年 4 月 東京都立豊多摩高等学校 入学 (2 年)  
昭和 38 年 9 月 米国カリフォルニア州 Garden Grove High School 入学(1 年)  
昭和 39 年 6 月 米国カリフォルニア州 Garden Grove High School 卒業  
昭和 39 年 9 月 米国 California State College at Long Beach 入学 (1 年)  
昭和 40 年 9 月 国際基督教大学 教養学部 入学 (4 年)  
昭和 44 年 3 月 国際基督教大学 教養学部 卒業  
昭和 44 年 4 月 国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育専攻修士課程 入学(4 年)  
昭和 48 年 3 月 国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育専攻修士課程 終了  
昭和 60 年 9 月 国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育専攻博士課程後期 入学  
(2 年)  
昭和 62 年 9 月 国際基督教大学大学院教育学研究科英語教育専攻博士課程後期単位修  
得後 中退

職歴

- 昭和 43 年 4 月 サイマル・インターナショナル株式会社 同時通訳者 (4 年)  
昭和 45 年 3 月 Japan Missionary Language Institute 日本語教師 (3 年)  
昭和 56 年 4 月 国際基督教大学高等学校 講師 (英語) (1 年)  
昭和 57 年 4 月 主婦 (OECD 日本政府代表部一等書記官として赴任の夫とパリ在住  
3 年)  
昭和 60 年 12 月 国際基督教大学 助手 (教養学部) (2 年)  
昭和 62 年 10 月 筑波大学 講師 (現代語現代文化学系国際関係学類)  
平成 3 年 4 月 麗澤大学 助教授 (外国語学部)  
平成 8 年 4 月 麗澤大学 教授 (経済学部)  
平成 18 年 4 月 麗澤大学大学院 教授 (言語教育研究科英語専攻課程)

主な所属学会及び社会的活動等

異文化コミュニケーション学会 監査役 シニア・フェロー

異文化間教育学会 理事

International Academy for Intercultural Research フェロー

株式会社 海外放送センター 多様性対応コミュニケーション研修顧問・講師

## 主要業績

### 著書

- 『日本におけるバイリンガリズム』、共著、研究社、1991年11月 ジョン・マーハ  
『Study Abroad』共著 研究社、1993年11月 ジョーン・ハウデン  
「異文化理解の教育とトレーニング」単著、『異文化理解とコミュニケーション2』共編著、三修社、1994年9月 本名信行他  
『Multilingual Japan』共著 Multilingual Matters, 1995年 ジョン・マーハ  
『異文化トレーニング』共著 三修社 1998年2月 町恵理子、小池浩子、吉田友子  
『異文化コミュニケーション・ワークブック』共著、三修社 2002年9月 荒木晶子、樋口容視子、山本志都、コミサロフ喜美  
『多文化社会の人間関係力』共著 三修社 2006年8月 山本喜久江  
『Beyond Boundaries』共著 桐原書店 2008年2月 池口セシリア  
『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』三修社、2010年10月 世良時子  
「異文化コミュニケーションと国際理解」単著、『国際社会を読み解く教養』麗澤大学国際社会・国際教養研究グループ編著 2011年3月

### 主な論文等

- 「国際コミュニケーションの基本」共著 『現代英語教育』平成2年4月から平成3年3月まで連載。毎回2頁、島岡丘  
「生活の中の異文化コミュニケーション」単著 『現代英語教育』平成3年4月から平成4年3月まで連載。毎回2頁  
「異文化コミュニケーションについての12のダイアログ」共著 『現代英語教育』平成4年4月から平成5年3月まで連載。毎回2頁、ワシレウスキー・ジャクリーン  
「Team Teaching Incidents: Intercultural Exercises」単著 『The Language Teacher』Vol.XVI:12 平成4年12月  
「Intercultural Exercises in Preparation for Team Teaching」単著 『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』Volume 1. 平成5年3月  
「Critical Incident Exercises for Japanese Students Going Abroad」単著 『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』Volume 2. Number 1 平成6年3月  
「Predeparture Training: Critical Incident Exercises」単著 『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』Volume 2. Number 2 平成6年9月  
「CSR関連企業研修：アンケート調査結果報告」共著 『麗澤学際ジャーナル』14巻2号 平成18年3月 吉田友子、鈴木有香  
「国際理解と異文化コミュニケーション」単著 『モラロジー生涯学習』.平成19

年9月、12月、平成20年3月3回連載 毎回4頁

「Explaining Employee Participation in and Evaluation of CSR-related Training Programs from an Intercultural Perspective」『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies.』 Vol.15, No.2, September 2007. Tomoko Yoshida, Yuka Suzuki.

「企業の求める異文化コミュニケーション能力：フォーカス・グループインタビュー調査から」『2006年度研究活動報告書：文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業部学術フロンティア・行動中心複語学習プロジェクト』慶応義塾大学平成20年3月 吉田友子、鈴木有香

「A Comparative Study of Japanese and Multinational Corporate Expatriate Training」『Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies』 Vol. 19, No. 1. 2011.

### 主な発表・研修

「留学前セミナー：目的確認と ICAPS」単 平成17年7月から平成21年7月毎年2回 麗澤大学国際交流センター

「異文化疑似体験学習・バーンガ」単 平成17年7月 国立オリンピック記念青少年総合センター・企画

「異文化疑似体験学習・バーンガ」単 平成17年11月 電気通信大学

「企業文化移転のための企業内コミュニケーション」単 平成14年6月 異文化コミュニケーション学会年次大会

「留学前セミナー：バーンガと ICAPS を使って」単 平成19年7月 麗澤大学国際交流センター

「企業が求める異文化コミュニケーション能力」単 平成19年9月 異文化コミュニケーション学会年次大会

「異文化間コミュニケーション・ワークショップ」単 平成19年12月 御茶ノ水女子大学大学院教育イニシアティブ

「異文化体験ワークショップ」単 平成20年5月 武蔵野市国際交流協会

「How Globalization Has Shaped the Definition of Intercultural Communication Skills Required by Japanese Business People」平成20年10月 SIETAR Global Conference in Spain

「インドネシアEPA介護福祉士候補者異文化コミュニケーション研修」単 平成20年9月、10月、11月 財団法人海外技術者研修協会

「交渉術」単 平成22年9月 社団法人千葉県看護協会 訪問看護ステーションの経営セミナー

「インドネシアEPA介護福祉士候補者異文化コミュニケーション研修」単 平成22年9月、10月、11月 財団法人海外技術者研修協会